

InterOpto2018 報告



最先端光技術の国際展示会である、InterOpto2018 を 10月 17 日（水）～10月 19 日（金）の 3 日間、幕張メッセにて開催した。

今年は「LED JAPAN 2018」「Imaging Japan 2018」の光関連技術 2 展示会と「MEMS センシング＆ネットワークシステム展 2018」を幕張メッセホール 7 にて同時開催したことに加え、昨年同様にホール 1～ホール 6 で同時に開催された CEATEC JAPAN 2018（CEATEC は 10 月 16 日～10 月 19 日の 4 日間）と相互入場を可能にしたこと、デバイスコンポーネントから IoT、AI、車といった注目のアプリケーションに至るまでの最新技術と製品が一堂に会する展示会となった。これにより、来場者の情報収集の効率化、有効化はもとより、出展者にとってのコラボレーションの機会も飛躍的に増大することとなった。

InterOpto2018 は当協会が主催し、株式会社 JTB コミュニケーションデザインが企画・推進、経済産業省ほか多数の団体の後援・協賛を得て開催した。（後援・協賛をいただいた団体を文末に掲載）

出展分野は、レーザ／光源、光素子／部品、材料、光機器／装置から光産業関連のサービス／ソフトウェアまで広範囲にわたり、出展品目を通して光関連材料から光応用システムまでの幅広い技術が展示された。

InterOpto 単独での開催規模としては、国内外の光関連メーカー、商社など 103 社、119 小間の出展があった。ホール 7 の 4 展示会合計では 294 社、297 小間の出展があった。開催期間 3 日間の登録来場者数（ホール 7 全体）は 4,570 名であったものの、相互入場を可能とした CEATEC 側からの入場者を含めた来場者総

数は 28,660 を数え、展示ホールは多くの来場者で溢れ、非常に活気のある展示会となった。

また展示ホールでは、恒例の「注目される光技術・特別展示ゾーン」を設置し、光技術動向調査委員会の各分科会から推薦を受けた企業 8 社が当協会からの出展支援を受けて技術・商品を展示するとともに、「注目される光技術セミナー」での講演を実施した。一方、当協会ブースでは、光産業・技術の概要を写真・パネルにて展示、特に光産業・技術に関する調査研究に関しては、各種調査報告書の展示、技術情報レポート等の無料配布など、当協会の活動の紹介、光産業および光技術の最新情報の提供など広報活動を行った。

一方、国際会議棟 3 階 303 の会場では 10 月 18 日に、東京大学の香取 秀俊氏による『光格子時計：新しい時間をつくる、使う』と題した特別講演と光技術 6 分野の光技術動向セミナーを、10 月 19 日には、株式会社 TAK・アナリティクス・リサーチの市田 丈人氏による『集約型からエッジへ拡大と進化を続けるデータセンタのインフラとサービス動向』と題した特別講演と、光産業全体および 7 分野の光産業動向セミナーを開催した。



『光格子時計：新しい時間をつくる、使う』
東京大学 大学院 工学系研究科 教授
理化学研究所 香取量子計測研究室 主任研究員
香取 秀俊氏



『集約型からエッジへ拡大と進化を続ける
データセンタのインフラとサービス動向』
株式会社 TAK・アナリティクス・リサーチ
取締役 主席アナリスト 市田 丈人氏

なお、来年度の InterOpto2019 は 2019 年 10 月 16 日（水）～18 日（金）の 3 日間、今年と同じく幕張メッセでの開催を予定しており、最新光技術の応用可能性をより幅広く訴求できる場となるよう、開催準備を進めていくことにしている。

後援・協賛をいただいた団体は次の通り。

後援（6団体）： 経済産業省、独立行政法人日本貿易振興機構、公益財団法人日本科学技術振興財団
一般財団法人対日貿易投資交流促進協会、千葉県、千葉市（順不同）

協賛（14団体）： 公益社団法人応用物理学会、一般社団法人電子情報技術産業協会、一般社団法人電気学会
一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人精密工学会、一般社団法人日本電機工業会
公益社団法人計測自動制御学会、一般社団法人日本電線工業会、一般社団法人日本光学会
一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会、一般社団法人レーザ加工学会、レーザ協会
レーザー輸入振興協会、一般財団法人マイクロマシンセンター（順不同）